

年間行事予定

- ◎ 1 月 13 日 (火) 9 時 ~ 12 時
成道会 (じょうどうえ)
釈尊がお悟りを開いた事に因んだ行事
- ◎ 1 月 15 日 (木)
懺法会 (せんぼうえ)
観音さまに懺悔と安泰を祈願
- ◎ 1 月 17 日 (土)
初観音講
- ◎ 2 月 1 日 (祝日)
新福寺大般若 ※祈願申込書を配布
- ◎ 2 月 15 日 (日)
涅槃会 (ねはんえ)
お釈迦さまのご命日、大涅槃図展覧
- ◎ 3 月 14 日 (土)
春季巡教 (しゅんきじゅんきよう)
本山巡教師ご法話、涅槃堂総供養
- ◎ 春分の日 (3 月 20 日)
お接待 どなたでも参加できます
三川各地、お寺は観音堂にて開催

☆お菓子のお接待

- ◎ 5 月 5 日 (祝日)
降誕会 (ごうたんえ) 釈尊の誕生日
(☆山門にて甘茶接待)
- ◎ 8 月 1 日 ~ 14 日
お盆のお参り
- ◎ 8 月 16 日 (日)
山門大施餓鬼 (さんもんだいせがき)
- ◎ 12 月 31 日 (大晦日) 23 時半 ~
除夜の鐘
- ◎ 毎月 17 日
観音講
- ◎ 御講当番
木ノ下
- ◎ お寺で婚活 吉縁会
参加には登録が必要です。詳しくは
吉縁会ホームページをご覧ください

祝 米寿

数えて米寿 (満 87 歳) をお迎えの方は
お寺までお知らせください。
大本山妙心寺管長猊下よりご祝辞と記念品が
ございます。

修理箇所報告

本堂正面から裏を修繕。観音堂扁額を復刻。本堂小磬を新調。本堂戸帳は縫製中。

あとがき

末筆となりましたが、佐賀関大火に罹災されました方々に、謹んでお見舞い申し上げます。夏に出向いた折、市内中心部と 10 度くらい気温差があり、海辺の涼しさと穏やかな港の風景に、しばし酷暑を忘れさせてくれた事を思い出します。よもや、このような惨事になるとは。今尚、苦しい思いを抱いておられる方々の心が少しでも癒え、やすらぎに到ることを祈念しております。

長勝寺報

第 17 号
令和 8 (2026) 年
新 春

長勝寺
ホームページ



発行所

〒八七〇一〇一四二
大分市三川下二丁目六番二十三号
Tel. 〇九七ー五五八ー四二八七
臨濟宗妙心寺派 長勝寺
E-mail tyosyoji.or@gmail.com

巻頭言

人工知能、AI というキーワードをよく耳にするようになりました。スマートフォンの検索でも一番上に AI が生成した検索結果が表示されるようになり、気が付かないだけで、日常の至る所、知らぬまに人工知能が溶け込んでいます。信じられない話ですが、これらが人間の知能を超えるのは時間の問題なのだそうです。

約千年前、唐の国に瑞巖和尚という方がおられました。「自分に向けて、おい、自分。と呼びかけ、ハイと返事をし、目を覚ましているかと呼びかけ、ハイと返事をし、瞞だまされるなよと呼びかけ、ハイと返事をする」

最初から最後まで独り言。何ともへんてこな話ですね。

私たちは、少なからず、他の影響を受けて生活しています。例えば料理一つ取っても、テレビやネット、本でレシだまピを調べます。それらから得た情報や、人から聞いた話が真実か

嘘かはさておきますが、肩書や立場、地位などにも色々と影響を受けています。自分というものは案外、何かの影響に簡単に左右されるものですが、厄介なのは、その影響を受けた自分を本来の自己と思い込んでしまう事です。よう。本来の自己とは、どんな影響にも左右されない。社員でも社長でも先生でもない。健康でも病気でもない。主体的な人間の人格そのものです。この本来の自己をはっきりと自覚するために、瑞巖和尚は「おい (本当の) 自分よ目を覚ましているか? 外から来たものに影響を受け、まんまと瞞だまされていないか?」と独り自問し、ハイと自答したのです。技術が発達し、人知を凌駕するものが出来上がろうとも、それを享受する自己自身に、何者にも影響されない、自由自在な心の自覚が無ければ、寝ぼけているのと同じ。瞞だまされているのと同じ。その便利さ故に、却って不自由になり下がることを、千年も前の瑞巖和尚は示しておられます。

本堂内陣から裏手を修繕しました

本尊様をお祀りする内陣は、シロアリや地震に見舞われたためか、だんだん北側に傾いていました。この傾きを良くする修繕を試みたのですが、なんと、この部分は土台から支えていたのではなく、上の梁から吊り下げられていたという思いもよらない構造が発覚しました。吊り下げた梁を支える西の壁が弱って下に沈下すると、壁以外に支える柱を持たない内陣の壁も一緒に下がって傾いたという事でした。基礎工事が未発達な大昔の家屋にはよくある構造なのだそうです。



観音堂 西江禪師揮毫の扁額を復刻

旧観音堂には扁額が掲げられていました。60年前までは掲げられていたようですが、区画整理後、老朽化のため取り外されました。観音五観の第一「真観」と書かれています。作者は白杵多福寺七世、西江禪師（1700年代）です。六ヶ迫鉱泉を発見したことで知られています。旧観音堂が完成したのが1737年ですから、完成当初から存在していたと思われる。復刻に際しては、原本の筆跡を忠実に残すことを目指しましたが、どうしてもわからない欠損部分は他の墨蹟を参考に補完しました。通常、設置には金属製の受け金具を使います。今回は、意匠に優れ、より強固な固定が可能となる、木材を用いた固定法を採用しています。



けんちん汁の話

けんちん汁は修行道場では減多に作れません。普段の料理には、豆腐のようにお店で買ったものは使えない決まりだからです。漢字では建長汁と書きます。鎌倉の建長寺で、ある僧があやまって豆腐を落としてしまいました。それを見た開山さまが、崩れた豆腐を集めて綺麗に洗い、作りかけの汁の中に入れたのが始まりとされています。落とした事を咎めるではなく、何でも活かして使うところに禅機があらわれています。ところで、けんちん汁の作り方を検索してみると、本来のあり方からかけ離れたレシピが散見されます。まず、いかなる出汁も使いません。野菜等と米のとぎ汁、豆腐のみです。野菜はなるべく皮を剥かず、いちよう切りにします。材料を油で炒める途中で塩少々を加え、浸透圧で野菜の水分を出しながら火を加えます。こうすることで野菜の旨味を引き出します。米のとぎ汁で煮た後、崩した木綿豆腐を入れます。豆腐を入れた後は沸騰させないように気を付け、薄口醤油で味を決めて出来上がりです。仕上げに葉物野菜を散らすこともあります。

シリーズ 長勝寺の至宝

玄関横 石幢(せきどう)

風化が進み、何が彫られていたのか、碑文の有無を含め詳細はまったく不明です。おそらく、六地藏石幢ではないかと思われます。近世に多い反りではなく、古い時代の特徴である、むくった笠の形状からも、かなり古い年代の作という事だけは分かります。石質は県産の凝灰岩でしょうか。長勝寺が亀王(三川上西公園の南)にあった500年前からあり、お寺が現在地に移された際に、この石幢も移された。との言い伝えがあり、それもうなずける古さです。

